

中村正雄と魚類図譜



中村正雄は慶応3年(1867)に鶴岡市馬場町に生まれました。朝暘学校を卒業後、西田川郡中学校に入学し、中等科を修業します。山形公立中部崇広学校(現在の山形市立第二小学校)とをはじめとして、西田川郡朝

暘学校、私立荘内中学校

などで勤務しました。24歳の時に松森胤保が会長を務める「奥羽人類学会」に参加し、29歳の時に『魚類図譜』2巻を発表します。

32歳で、米沢中学校興譲館の教諭となって庄内を離れた後は、新潟県の長岡中学校の教諭や柏崎中学校の教諭を歴任し、57歳で宇都宮高等農林学校の講師となります。59歳の時に新潟県での調査を元に『新潟県天産誌』を発表します。64歳で宇都宮高等農林学校を退職した後に、『水産雑纂』や『落穂集』などを著し、76歳で生まれ故郷の鶴岡に帰った後、『原色昆虫図譜』を大成させます。

77歳で世を去るまでに、これら多くの著作を著し、30数種の新種を発表しています。現在、『中村氏庄内海産・淡水魚類図譜』をはじめとする氏の著作の多くは、鶴岡市郷土資料館に所蔵されています。

松森胤保と両羽博物図譜



松森胤保は文政8年(1825)に庄内藩士長坂市右衛門治礼の長男として生まれました。青少年時代は藩校致道館に学び、38歳で家督を継ぎます。その後、庄内藩の支藩である松山藩の家老となり、明治維新後は、区長や校長、

県会議員などを歴任します。61歳ですべての公職を辞めて著述に専念します。68歳で世を去るまでの間に『両羽博物図譜』や『物理新論』などの大著を完成させました。

氏の残した著作は、博物学や考古学、さらには工業機械の発明や改良に関するものまで多方面にわたっています。そのなかでも『両羽博物図譜』には幕末から明治にかけて両羽(現在の山形県と秋田県)に生息していた動植物が鮮やかな色彩で描かれています。図にはその生き物についての生息状況や体長や体重など動物学的にも重要な情報が記されており、当時の自然環境を知るための重要な手がかりとなっています。

現在、『両羽博物図譜』は山形県指定の有形文化財として、酒市立光丘文庫に所蔵されています。

庄内博物誌

図譜から見た
生き物の移り変わり



平成一九年度企画展

庄内藩士松森胤保の
博物学と自然観察

〈開催期間〉

平成19年11月3日～12月16日まで

〈記念講演会 平成19年11月10日〉

「庄内博物誌とナチュラリストの系譜」

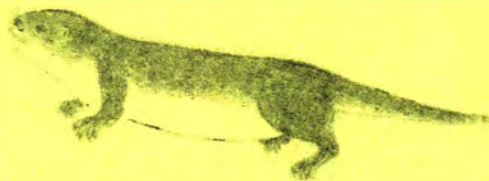
『両羽博物図譜』に描かれた動物たち

『両羽博物図譜』は、『両羽獣類図譜』2冊、『両羽禽類図譜』14冊、『両羽爬虫図譜』1冊、『両羽魚類図譜』4冊、『両羽貝螺図譜』2冊、『両羽飛虫図譜』8冊、『両羽植物図譜』28冊の合計59冊からなります。この分類法と現在の分類法では異なるところも少なからず見受けられますが、当時の学説や彼独自の自然観が随所に反映されています。

それぞれの図譜によって総論を設けている巻もあり、単なる図鑑的な生き物の紹介だけでなく、その分類群に対して俯瞰的な視点を胤保が持っていたことをうかがい知ることができます。

『両羽獣類図譜』

『両羽獣類図譜』の上巻は『両羽博物図譜』全体の総論について述べられており、現在の分類で哺乳類あたる動物を個別に取り上げているのは、下巻からとなっています。下巻には、テンやムササビ、モモンガなどともに、ニホンオオカミやニホンカワウソなど現在では絶滅してしまった貴重な動物たちも取り上げられています。



ニホンカワウソ

『両羽禽類図譜』

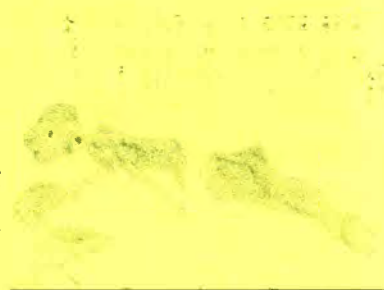
全14冊のうち、最初の2冊が鳥類についての総論で、残り12冊が図譜となっています。総論のなかには、狩猟の方法や剥製の作り方なども解説されています。図譜には656種類の鳥類が掲載されており、日本で数回しか確認記録のない渡り鳥や迷鳥の記載もあり、現在の鳥類の分布を考えるうえでも貴重な記録となっています。

『両羽爬虫図譜』

爬虫図譜となっていますが、爬虫類とイモリやカエルなどの両生類を含む35点が図示されています。タイマイやオサガメなど暖かい海に棲むウミガメの貴重な漂着記録も記されています。これら日本産の爬虫類に加えて、鶴岡や松山で行われていた見せ物に出ていた外国産のトカゲやワニなども掲載されています。

『両羽魚類図譜』

現在の分類で、海棲哺乳類が7種、魚類約145種、円口類2種が図示されています。旧朝日村（現在の鶴岡市）の大鳥池に棲むと言われるタキタロウや最近新種記載されたウケクチウグイなど興味深い記述も多く含まれています。このほかに人魚が取り上げられ、体の各部を詳しく計測しています。



ニンギョ

『中村氏庄内海産・淡水魚類図鑑』

この2巻は、半紙1枚に1点の生き物を写生したものを後につなぎあわせて、巻物仕立てにしたものです。海水魚の巻には38図、淡水魚の巻には24図（8図の鳥類が含まれて）が色鮮やかに描かれています。

それぞれの図には、写生した年月日とともに描かれた生き物の入手経路も書き込まれているので、当時の淡水・海水それぞれに棲んでいた魚類を詳しく知ることができます。また、鱗の条数などの体節形質や学名が記されていることから、彼がすでに魚類学の基礎について学んでいたことをうかがい知ることができます。



クロソイ

＜展示協力＞

酒田市立図書館 鶴岡市郷土資料館
山形県立鶴岡南高等学校
松森写真館